

## 2. 節水の必要性認知と節水行動

### 2.1. 節水の必要性

20歳は節水をどのように意識しているのだろうか。「節水の必要性」と実際の「節水行動」について、見てみよう。

表 3. 節水の必要性（20歳と30歳）

	必要と思う	必要と思わない	わからない	総計
20歳	345	29	26	400
	86.3%	7.3%	6.5%	
30歳	353	16	31	400
	88.3%	4.0%	7.8%	
総計	698	45	57	800

※割合については四捨五入して表記したため合計が100にならないことがある。以下同様。

「節水することは必要と思いますか？」という質問に、20歳400名の86.3%、同じく30歳400名の88.3%が「必要」と回答している。どちらもほとんど差が無く、約9割の回答者が節水を必要と思っていることがわかる。

表 4. 節水の必要性（男性と女性）

	必要と思う	必要と思わない	わからない	総計
男性	167	20	13	200
	83.5%	10.0%	6.5%	
女性	178	9	13	200
	89.0%	4.5%	6.5%	
総計	345	29	26	400

では20歳の回答者400名について、性別による差はあるのだろうか？男性、女性とも「必要と思う」が8割を超えており、女性が男性に比べ5.5%高い結果となっている。性別による差もほとんど無いことがわかる。

表 5. 節水の必要性（独居と同居）

	必要と思う	必要と思わない	わからない	総計
独居	174	16	10	200
	87.0%	8.0%	5.0%	
同居	171	13	16	200
	85.5%	6.5%	8.0%	
総計	345	29	26	400

20歳同居者の有無でも、差はほとんど見られない。独居者、同居者共に85%以上が節水を必要と思っていることがわかる。

## 2.2. 節水実施

「節水を必要と思っている」ことと、実際に「節水している」こととは異なる。回答者はどの程度実際に節水をしているのだろうか。

表 6. 節水実施（年齢、同居人数）

		節水している	節水していない	総計
20歳	独居	126	74	200
		31.5%	18.5%	
	同居	112	88	200
		28.0%	22.0%	
	小計	238	162	400
	59.5%	40.5%		
30歳	独居	131	69	200
		32.8%	17.3%	
	同居	147	53	200
		36.8%	13.3%	
	小計	278	122	400
	69.5%	30.5%		
総計		516	284	800

20歳の59.5%が実際に節水を行っている。これはけっして低い水準ではない。

本調査における20歳の回答者大半が学生であるが、家族と同居している20歳は、独居者と比べ節水率の差はあるのだろうか。家族の目を意識する分、節水率が高いとも思えるが、一人暮らしの方が家計に敏感になるために節水率が高いとも考えられる。表6では、独居者が同居者と比べ3.5%節水率が高い結果となった。

では、30歳とは差はあるのだろうか。表6を見ると、20歳は30歳に比べ10%低く、節水率に明確な差があることがわかる。

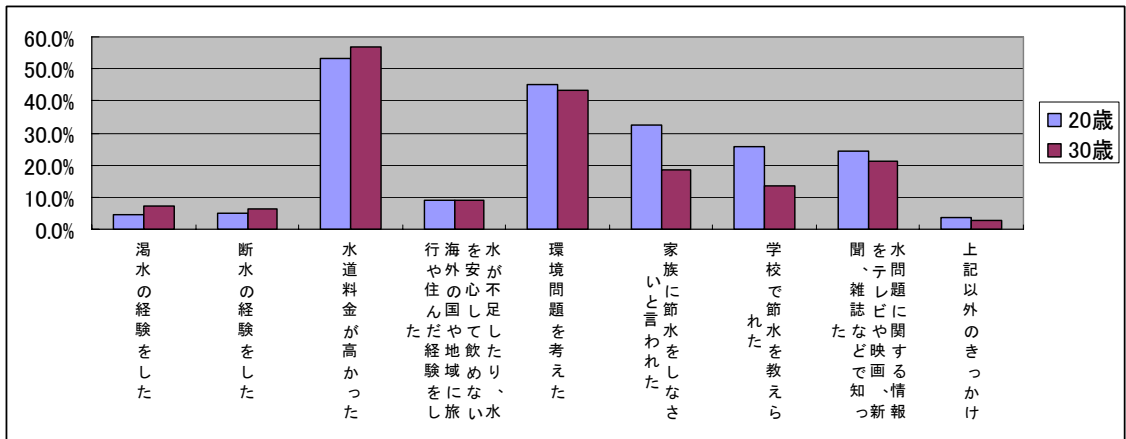
## 2.3. 節水実施のきっかけ

節水実施のきっかけに、20歳と30歳とでは差があるのだろうか。

表 7. 節水をするようになったきっかけ（年齢別）

	20歳 (n=238)		30歳 (n=278)		合計 (n=516)	
渇水の経験をした	11	4.6%	20	7.2%	31	6.0%
断水の経験をした	12	5.0%	18	6.5%	30	5.8%
水道料金が高かった	127	53.4%	158	56.8%	285	55.2%
水が不足したり、水を安心して飲めない海外の国や地域に旅行や住んだ経験をした	22	9.2%	25	9.0%	47	9.1%
環境問題を考えた	107	45.0%	120	43.2%	227	44.0%
家族に節水をしなさいと言われた	77	32.4%	52	18.7%	129	25.0%
学校で節水を教えられた	61	25.6%	37	13.3%	98	19.0%
水問題に関する情報をテレビや映画、新聞、雑誌などで知った	58	24.4%	59	21.2%	117	22.7%
上記以外のきっかけ	9	3.8%	8	2.9%	17	3.3%

図 1.節水をするようになったきっかけ（年齢別）



「水道料金が高かった」という回答が 20 歳、30 歳とも第一位、第二位が「環境問題を考えた」が続き、20 歳と 30 歳の差はほとんど無い。一方「家族に節水をしなさいと言われた」「学校で節水を教えられた」は 20 歳と 30 歳の間でそれぞれ 13.7%、12.3%の差がついている。20 歳にとってみれば家族や学校からのきっかけが身近な分、30 歳と差がついてもおかしくない。

ここで興味深いのは、「水道料金が高かった」という節約志向と「環境問題を考えた」という環境志向が並立する構図が現れていることだ。

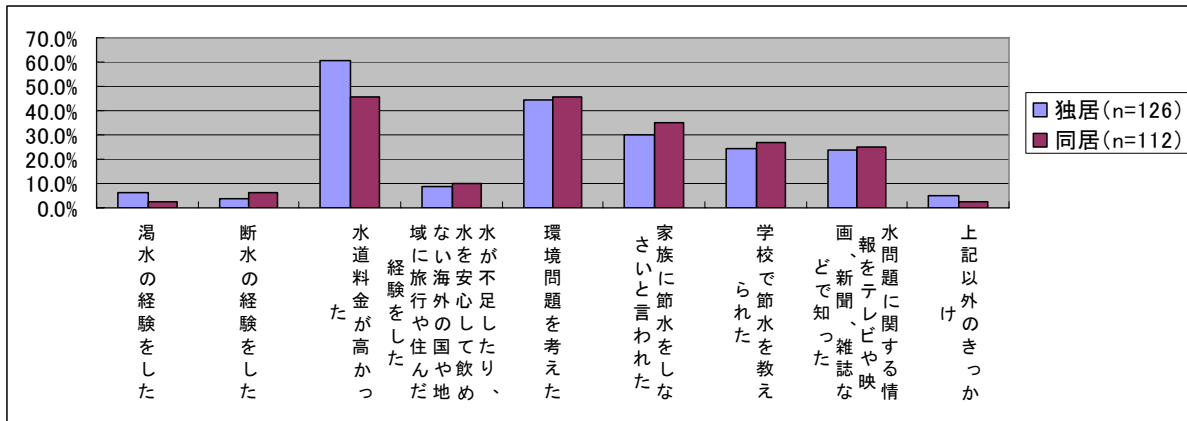
では 20 歳だけを抽出して独居・同居で差があるのか見てみよう。

20 歳の回答者 238 名（59.5%）が実際に節水を行っている。では、この 238 名はどのようなきっかけから節水を行うようになったのだろうか。

表 8.節水をするようになったきっかけ（独居、同居別）

	独居 (n=126)		同居 (n=112)		合計 (n=238)	
渇水の経験をした	8	6.3%	3	2.7%	11	4.6%
断水の経験をした	5	4.0%	7	6.3%	12	5.0%
水道料金が高かった	76	60.3%	51	45.5%	127	53.4%
水が不足したり、水を安心して飲めない海外の国や地域に旅行や住んだ経験をした	11	8.7%	11	9.8%	22	9.2%
環境問題を考えた	56	44.4%	51	45.5%	107	45.0%
家族に節水をしなさいと言われた	38	30.2%	39	34.8%	77	32.4%
学校で節水を教えられた	31	24.6%	30	26.8%	61	25.6%
水問題に関する情報をテレビや映画、新聞、雑誌などで知った	30	23.8%	28	25.0%	58	24.4%
上記以外のきっかけ	6	4.8%	3	2.7%	9	3.8%

図 2. 節水をするようになったきっかけ (独居、同居別)



20歳全体で見ると、一番多かった回答が「水道料金が高かった」で127名(53.4%)、次に「環境問題を考えた」が107名(45.0%)となっており、節約志向と環境志向が並立している構図は変わらない。

また、同居者に比べ独居の方がより水道料金負担が節水の動機に結びついていることがわかる。

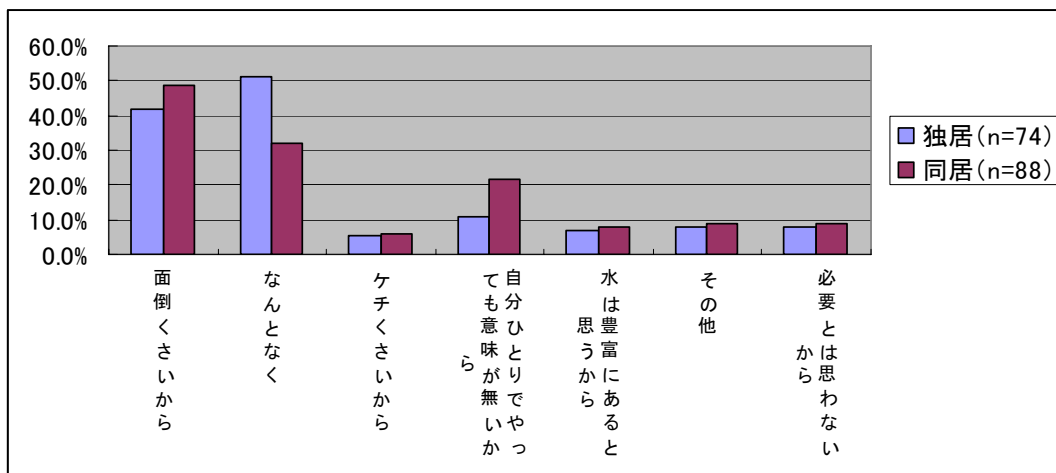
### 2.4. 節水しない理由

「節水をしていない」という162名に対しては、節水しない理由についてたずねた。

表 9. 節水しない理由 (独居、同居)

	独居 (n=74)		同居 (n=88)		合計 (n=162)	
面倒くさいから	31	41.9%	43	48.9%	74	45.7%
なんとなく	38	51.4%	28	31.8%	66	40.7%
ケチくさいから	4	5.4%	5	5.7%	9	5.6%
自分ひとりでやっても意味が無いから	8	10.8%	19	21.6%	27	16.7%
水は豊富にあると思うから	5	6.8%	7	8.0%	12	7.4%
その他	6	8.1%	8	9.1%	14	8.6%
必要とは思わないから	6	8.1%	8	9.1%	14	8.6%

図 3. 節水しない理由 (独居、同居)



節水しない理由の第一位は、「面倒くさいから」が 74 名 (45.7%)、「なんとなく」が 66 名 (40.7%)と続いている。

独居、同居の差については、「なんとなく」が独居の方が同居に比べ 10 名 (19.6%) 多くなっている。

## 2.5.節水必要性和実施の関係

「節水が必要であると思う」と回答した 345 名、そして「節水している」と回答した 238 名の間にはどのような関係があるのだろうか。

表 10.節水必要性和節水実施のクロス人数

	節水している	節水していない	総計
節水は必要と思う	233	112	345
節水は必要と思わない	3	26	29
わからない	2	24	26
総計	238	162	400

表 11.節水必要性和節水実施のクロス構成比

	節水している	節水していない
節水は必要と思う	58.3%	28.0%
節水は必要と思わない	0.8%	6.5%
わからない	0.5%	6.0%

表 10、11 を見ると、「節水は必要と思ひ」かつ「節水している」20 歳は 233 名おり全体の 58.3% に及んでいる。決して低い水準とは言えない。

一方「節水は必要と思う」が、実際には「節水していない」という回答者が 112 名、全体の 28%いることがわかる。

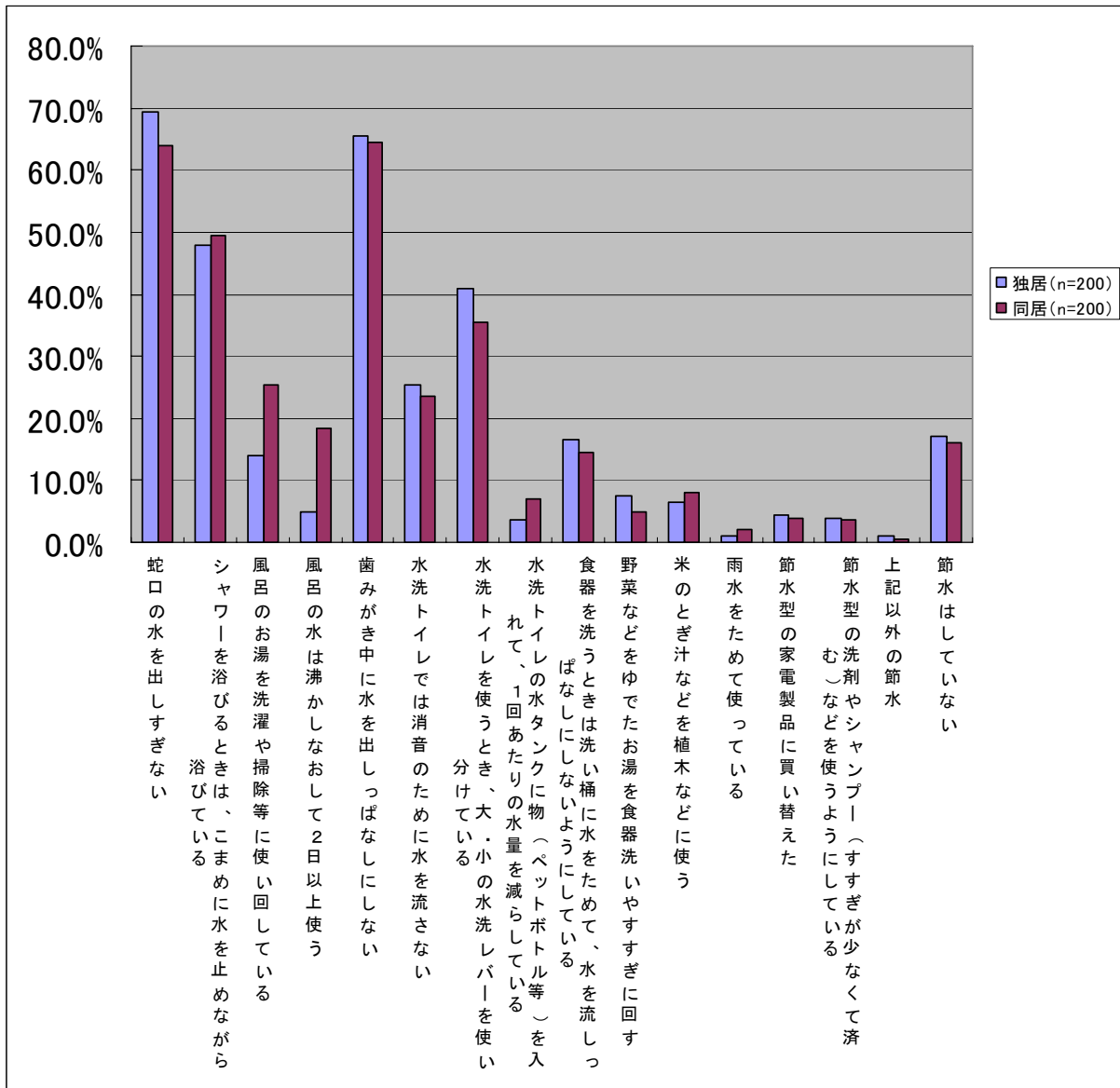
## 2.6. 節水方法

「節水している」回答者は238名いた。20歳全員（400名）にあらためて節水方法について複数回答でたずねた。

表 12. 実際の節水方法（独居、同居）

	独居 (n=200)		同居 (n=200)		合計	
蛇口の水を出しすぎない	139	69.5%	128	64.0%	267	66.8%
シャワーを浴びるときは、こまめに水を止めながら浴びている	96	48.0%	99	49.5%	195	48.8%
風呂のお湯を洗濯や掃除等に使い回している	28	14.0%	51	25.5%	79	19.8%
風呂の水は沸かしなおして2日以上使う	10	5.0%	37	18.5%	47	11.8%
歯みがき中に水を出しっぱなしにしない	131	65.5%	129	64.5%	260	65.0%
水洗トイレでは消音のために水を流さない	51	25.5%	47	23.5%	98	24.5%
水洗トイレを使うとき、大・小の水洗レバーを使い分けている	82	41.0%	71	35.5%	153	38.3%
水洗トイレの水タンクに物（ペットボトル等）を入れて、1回あたりの水量を減らしている	7	3.5%	14	7.0%	21	5.3%
食器を洗うときは洗い桶に水をためて、水を流しっぱなしにしないようにしている	33	16.5%	29	14.5%	62	15.5%
野菜などをゆでたお湯を食器洗いやすすぎに回す	15	7.5%	10	5.0%	25	6.3%
米のとぎ汁などを植木などに使う	13	6.5%	16	8.0%	29	7.3%
雨水をためて使っている	2	1.0%	4	2.0%	6	1.5%
節水型の家電製品に買い替えた	9	4.5%	8	4.0%	17	4.3%
節水型の洗剤やシャンプー（すすぎが少なくて済む）などを使うようにしている	8	4.0%	7	3.5%	15	3.8%
上記以外の節水	2	1.0%	1	0.5%	3	0.8%
節水はしていない	34	17.0%	32	16.0%	66	16.5%

図 4. 実際の節水方法（独居、同居）



節水方法について質問した所、20歳では「蛇口の水を出しすぎない」が267名（66.8%）、「歯磨き中に水を出しっぱなしにしない」が260名（65.0%）と続いている。

「風呂のお湯を洗濯などに使い回す」ための機能をもった洗濯機が市場に出回り、使い回し湯での洗濯用の防臭商品等も販売されているが、そのような節水方法をとっている回答者は19.8%存在した。一般に予想されるよりは低い水準ではないだろうか。特に独居者の割合は14%と少ない。洗濯機の機能にも左右されるが、同時に、「使い回してまでも洗濯に使いたくない」という20歳の衛生感や、シャワーで入浴を済ませるといった入浴習慣、浴槽に湯をはる日と洗濯日が合わないなど、いくつかの要因が想像できる。今後の調査課題の一つだろう。

さらに、節水方法として意識されているのは「蛇口の水を出しすぎない」「歯磨き中に水を出しっぱなしにしない」「シャワーを浴びる時は、こまめに水を止めながら浴びる」といった「出す水」（蛇口の制御）についての節水方法で、高い回答数を示している。一方、風呂の水や水洗トイレのタンクなど、水をためる段階で貯水量を減らしたりリサイクルするなど「ためる水」についての節水を意識している回答者は少ない。

## 2.7. 節水理由

節水方法について見てきたが、20歳はどのような理由で節水が必要と思っているのだろうか。「なぜ節水が必要ですか」という質問に順位をつけて回答してもらった (SA)。

表 13. 節水が必要と考える理由と順位 (20歳、30歳)

	1位の理由		2位の理由		3位の理由	
	20歳	30歳	20歳	30歳	20歳	30歳
水道料金を抑えるため	159	140	87	111	51	50
水がもったいないから	128	152	123	136	49	41
自分が水を使いすぎると地球上の誰かが水に困るから	21	16	31	37	64	59
環境を守るため	51	64	88	64	97	121
Co2を削減するため	5	6	8	13	16	24
家族から「節水しなさい」と言われたから	4	2	17	2	34	20
学校で「節水しよう」と教わったから	1	0	5	3	20	11
わからない	9	8	11	13	25	38
上記以外の理由	1	2	0	3	3	5
節水が必要とは思わない	21	10	0	0	0	0
無回答	0	0	30	18	41	31
総計	400	400	400	400	400	400

図 5. 節水が必要と考える理由と順位 (20歳)

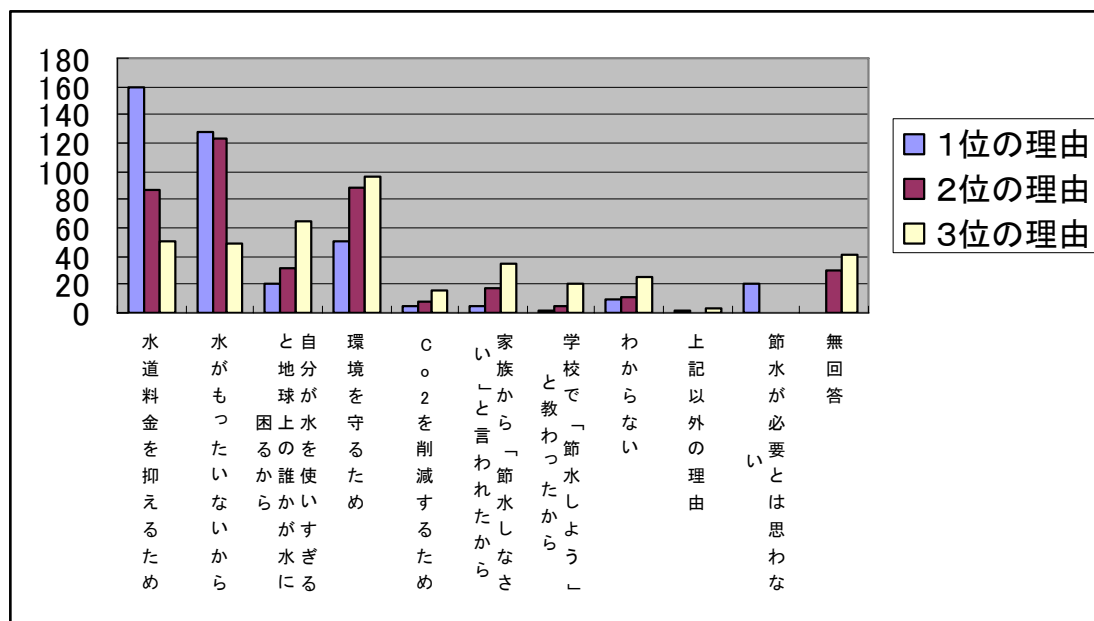
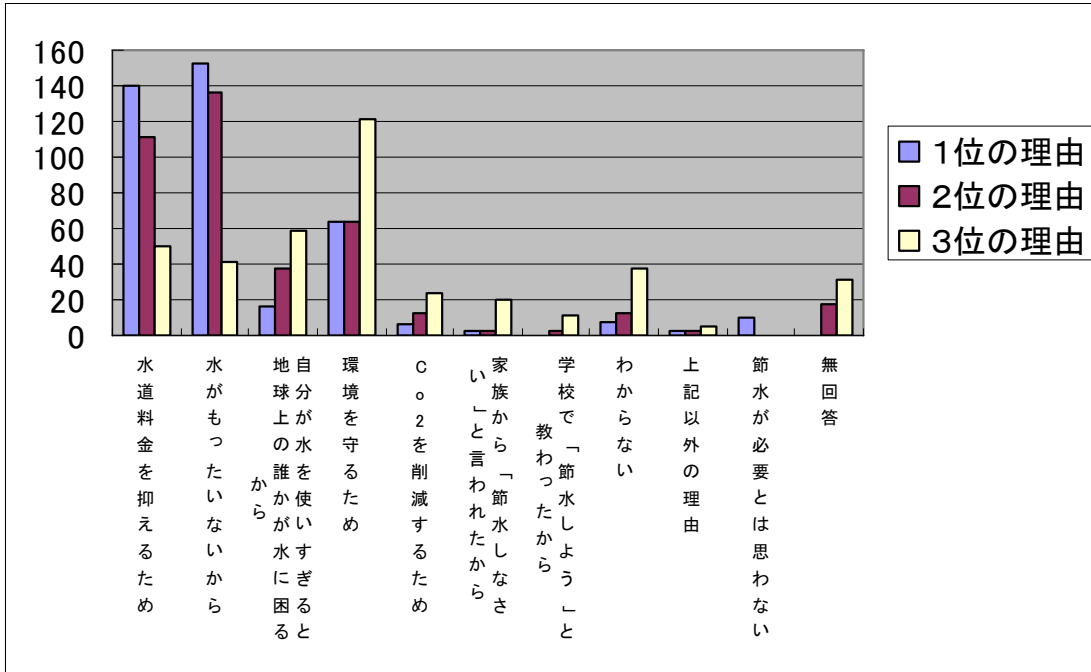




図 6.節水が必要と考える理由と順位（30 歳）



20歳の1位は「水道料金を抑えたい」、2位は「水がもったいない」となるが、30歳ではこの順位が逆転している。また、「環境を守る」「自分が水を使いすぎると地球上の誰かが水に困るから」は、3位に下がるほど回答者数が高くなる。環境志向は1番に重要ではないが2番目、3番目に大事とされている理由となっている。

「水道料金を抑えるため」が「節約志向」、「水がもったいないから」が「もったいない志向」、「環境を守るため」が「環境志向」と、節水が必要と考える理由の回答者は大きく三つの志向に分けることが可能だろう。